

海の向こうから

みなさん、こんにちは。いかがお過ごしですか？2015年も終盤を迎え、今年度もたくさんの隊員が広島県から世界各国へ出発しました。そんな現地隊員の方からもお便りが届いています。さて今年は、青年海外協力隊発足50周年でもありました。今年度の会報誌は、記念行事の一つである「ひろしまフラワーフェスティバル」からスタートです！

泣けるっ？！ 青年海外協力隊50周年 ひろしまフラワーフェスティバル



2015パレード参加報告 2015年5月27日

報告者：森木由加里さん 18年度2次隊 フィリピン 陶磁器

5月3日～5日ひろしまフラワーフェスティバルにJICAブース出展と3日のパレードに青年海外協力隊50周年を記念として初参加しました！

パレード参加目標人数100名を掲げ不安と期待を胸に、中国5県はもちろん県外からの参加や、広島のアイドルグループ「VENUS」の協力もあり、おかげさまで当日は100名以上のOB/OGを中心とする参加者が広島の大通りを集まりました。協力隊経験の思い出深い任国の民族衣装とおそろいのTシャツを身にまとい、世界の楽器と手作りした花のバルーンアートでパレードを盛り上げることが出来ました。



パレード当日の天気は雨。ここ数十年パレード当日の天気は晴れ予想から大きく崩れ、予期せぬ雨に参加者の表情も不安と期待が入り混じっていました。しかし、パレードのスタート時間が近づくと参加者の表情は一転し笑顔に。やる気と楽しむ気持ちが雨を吹き飛ばし、

世界も日本も元気にする

青年海外協力隊の姿が印象的でした。

楽しかった～！ 終了後の参加者からの声に嬉しさも増し、そして何よりもOB/OG同士の「つながり」がより一層強くなったパレードでもありました。協力隊初代の隊員から帰国直後の隊員まで多くの方々の思いが一つになった経験は、今後の50周年記念イベントをより一層盛り上げてくれることでしょう。

(JICA中国HPより転載)



チョコレートから見るセカイフェアトレードって?!



9月12日(土)13:00~16:00@廿日市市民活動センター

報告者：中里春菜さん 20年度3次隊 ザンビア共和国 理数科教師

(↓ザンビアでの中里さん)

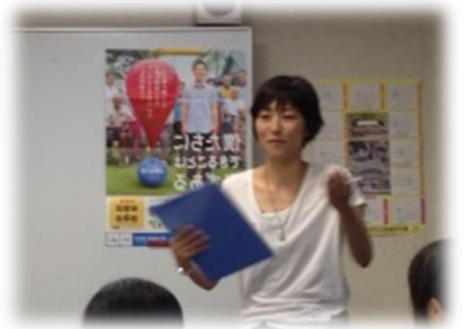


フェアトレード。大事なのは分かるんだけど、高いからたまにしか買えないなってイメージありませんか?それから、国際協力イベントなんかでは会うことがあるけどあんまり身近には売られていないなって。実は、私はそんな風に思っていました。ところが!!今回のワークショップを通してそのイメージが変わりました。ここでは、それをお伝えするとともに、ワークショップ後に私が少しお話しさせていただいた内容についても報告させていただきます。

ワークショップは広島県 JICA デスクの上田愛さんが
行い、私はそれに参加させてもらいました。そこでの1番の発見は、

「実は身近にお手頃価格でフェアトレードチョコレートが販売されている!!」

ということです。そして気づきは、「フェアな価格とは?」ということです。(上田愛さん→)



一つ目の発見から見ていきましょう。ところで、みなさんはフェアトレード商品の見分け方をご存知ですか?フェアトレードの国際基準を満たし、認証を受けた商品にはFARETRADEとかかれたロゴが付いています(↑フェアトレードチョコ)。これがついていれば商品名に分かりやすくフェアトレードと書かれていなくてもフェアトレード商品であると分かるのです。ただ、注意して見ないと見過ごしてしまうかもしれませんね。実はこの商品、イオンやマックスバリュ、無印良品などのお店にも置かれているんです!写真1はイオンのチョコレートです。これが116円(税込)には驚きでした!この価格でフェアトレード商品を販売できるとは、さすが大手企業だなと感心しました。これだったら、選択に迫られたとき、価格の壁がなくフェアトレード商品を選ぼうって決断できますよね。消費者がフェアトレード商品を選択することで、企業のこういった取り組みを応援し、さらに広がっていったらいいなと思います。だからこそ、フェアトレード商品がこんなに気軽に買えるんだということをも発信していきたいなと思っています。紹介してくれた上田さん、ありがとうございました。



続いて、「フェアな価格」について疑問を投げかけたいと思います。今回のワークショップでは、カカオ農家と買取業者に分かれてロールプレイをしました。私は買取業者役で、フェアトレードを行う使命が与えられました。ルールには買取価格に関する指示がありますが、結局は農家と業者の話し合いで価格を決定します。感想ですが、「いや~価格設定って難しいな」と思いました。フェアトレード業者ですので買い叩くつもりは毛頭ないのですが、こちらが価格を提示するともっと上げてほしいと要求されます。できるだけ希望を聞いてあげたいなと思いつつ、あまり高いとこちらもお金が無くなってしまいますし、市場に出すチョコレートの価格がとっても高くなって売れなくなってしまいます。ただの慈善事業ではありませんからビジネスとして成り立たなければなりません。そうでなければ持続性のないものになってしまいます。ちょうど良い価格ってなんなのでしょう?フェアっていうのは誰が決めるのでしょうか?

この事はワークショップが終わってからも結構頭の中にもやもやと居座っていました。フェアな価格を付けるためには、その前に生産者と買取業者がフェアな関係を築くことが必要なんじゃないでしょうか。それがあって始めてお互いにお互いの主張をぶつけ合っとうまい接点を見つめることができるんじゃないでしょうか。でもフェアな関係(対等な関係)を築くってところが別のチャレンジですよ。フェアトレードという言葉を聞くと結構弱い立場にある人を「助けてあげる」的な発想が見え隠れする気がします。支援する側とされる側の構造ができれば対等な関係を作るのは難しいですよ。でもそれがあったからフェアトレードという発想が生まれたんでしょ。うーん…このことについていろんな立場の方と議論したいなと思っているところです。

最後に、イベントで私が話したことについて書きたいと思います。広島大学の学生団体 OPERATION つながりの海外部メンバーが行っているベトナムの雑貨販売の活動についてです。この活動はメンバーの一人がベトナムで現地の大学生(ベトナム少数民族のチャム族出身)と知り合ったのがきっかけで始まりました。独自の文化が失われて欲しくないという彼の思いを叶えるため、チャム族の伝統的な機織りで作られた生地を使ってチャム族の女性たちが作る小物や雑貨を日本で販売し、その際にチャム族について伝える活動を2012年から始めました。広島的大学生とチャム族の大学生によるフェアな人間関係の上に、価格を決定し取引しています。また、年に1度はベトナムに赴き現地の人と交流しながら、自分たちもベトナムについて学び、チャム族について理解を深め、日本で発信する活動をしています。これは、大学生であるからこそ築くことのできる人間関係であり、活動を通して学びを深めるいいサイクルとなっていると思います。不定期に販売活動や報告会を実施していますので興味のある方はHPをチェックしてみてください。
(チャム族の雑貨→)



OPERATION つながり→<http://operationtsunagari.jp/>

エルサルバドルってこんなところ!



8月29日(土) 19:00~20:30@尾道あくびーカフェ
報告者: 難波紋子さん 23年2次隊 エルサルバドル 料理

昨年に続いて尾道のあくびーカフェにて私のエルサルバドルの活動体験を発表させてもらいました。当日は雨でしたが、たくさんの方に参加して頂きとてもうれしかったです。カフェなので、学生や若い世代の方の参加が目立ちました。パワーポイントを使った講演スタイルにしました!と同時に私は料理隊員でもあるので、参加者の皆さんにはエルサルバドルの郷土料理であるPUPUSAを召し上がって頂きながらリラックスした空間でお話を聞いて頂きました。私も当時の活動や生活での喜怒哀楽を思い出しながら、当時の貴重な体験を参

加者の皆さんと共有することができ、**人との出会いの素晴らしさ**が、現在でも心の大きな支えになっていることをお伝えしました。活動報告の終了後も、質疑応答があり、現地での生活習慣や食糧事情、教育制度など、多岐に亘る分野について積極的に質問を頂きました。実際に協力隊への参加に興味を持っている方もいて、帰国後の進路等に関して具体的に質問頂きました。イベントを通じて、JICAの協力隊員の活動や成果を知って頂き、参加者ご自身の能力を生かせる場の選択肢が少しでも増えるきっかけにつながることを望んでおります。写真はエルサルバドルでの活動の様子です。



被災地支援報告

細川 光宜さん
H8-2 パプアニューギニア 木工



協力隊経験が躍動



昨年8月に発生した広島土砂災害において、災害発生翌日から、ボランティアセンター立ち上げにOBが参加し、ボランティアセンター運営に多くの協力隊OBが関わりました。ボラセンでのOBの活躍は昨年の会報でも紹介した通りです。看護師OGはセンターの医療班で、自動車整備OBは車両管理を、土木OBは土



砂で埋め尽くされた現場で指揮をとるなど、それぞれの専門性を発揮しました。

新たな挑戦

年が明け土砂が片付いた被災地には、解体の終わった住宅跡地が点在し、あちこちに寂しい光景が広がっていました。住宅を失い避難した人たちとその場に残った住民との距離が次第に開いていました。避難した先で孤立する被災者も問題となっていました。何とか元のつながりを維持する方法を考え、

花いっぱい企画

がスタートしたのです。協力隊OB・残った地域住民・避難した被災者が力を合わせて被災地に花を植え始めました。場所により、果樹・サツマイモも植えています。協力隊OBの経験はここでも発揮され、農業系隊員OBが植えるべき植物の選定、土壌を調査して適切な肥料・腐葉土の調合を行い、植物の成長に不向きな住宅跡地の土壌改良を行いました。たださえ植物の成長に不向きな住宅地に土砂・石ころが多量に流れ込んだ場所で土壌改良には、労力しましたが、多くのボランティアが全国から協力を訪れ、人海戦術で石を取り除き、夏には住宅跡地はどこも花が満開となりました。秋にはサツマイモも無事収穫、数年後に収穫できる予定の柑橘系の樹木も順調に育っています。



派遣前アンケート

【アンケートの内容】

- ① 名前
- ② 隊次/派遣国
- ③ 職種
- ④ 応募したきっかけ
- ⑤ 訓練所での辛かった思い出
- ⑥ 訓練所での楽しかった思い出
- ⑦ 活動中に挑戦したいこと
- ⑧ 出国前の心境
- ⑨ 意気込みを一言！



派遣前訓練を無事に終わられた隊員の方に聞きました！
平成26年度3次隊から平成27年2次隊までの方々です
(回答のあった人のみを掲載しています)。

- ① 宗藤 伸一 ②26-3/ポリビア ③自動車整備
- ④ 今まで身につけた整備の経験を生かせることと、どのくらい現地で役立てることができるか、ためしてみたい。
- ⑤ 朝のランニング ⑥語学訓練。スポーツ大会
- ⑦ 出来るだけ現地の人と交流してみたい。自分の自動車整備の技術が現地の人に役立つ様子ががんばりたい。
- ⑧ 自分一人で生活できるか少し心配ですが、早く派遣地の生活をしたいと、楽しみにしている。
- ⑨ 健康に注意して、自分の力を全部出し切りたい。

- ① 横田 菜月 ②26-3/ポリビア
- ③ 手工芸
- ④ 東南アジアなどを旅し、手仕事をし生活する人々にたくさん出会ったが、伝統が失われたり、生活がうまくいってない様子を目の当たりにし、自分の技術が生かせるのではと思ったため。
- ⑤ 語学を勉強しても勉強しても、上達している感覚がつかめなかったこと。しかし辛かったことはほとんどない。
- ⑥ 同じような思いや考えを持った仲間に出会えたこと。とくに語学クラスは家族みたいで、毎週のように集まっていた。
- ⑦ 学校内で教えるだけでなく、販路を見つけるなど外に向けた活動も行いたい。どっぷりポリビアの人々と同じように生活したい。
- ⑧ 楽しみ、しかないです。
- ⑨ いっぱい教えて、いっぱい学びたい。2年間ポリビア色に染まりたい。

- ① 坂本 和枝 ②26-3/モルディブ ③体育
- ④ 小学校教諭をしている中で、子どもたちに世界のことを伝えたいと思ったため。
- ⑤ 苦手な英語。自分の思いが伝わらない、言いたいことが表現できない、聞き取れない、辛かったです。
- ⑥ 少しでも英語でコミュニケーションがとれるようになったこと。いろいろな職種、年齢の方といろいろな話ができたこと。
- ⑦ モルディブに合う体育の意義やそれを実践するための方法を見つけたい。
- ⑧ ドキドキ(不安)、ワクワク(楽しみ)
- ⑨ 自分なりに楽しみ、がんばってきます。感謝の気持ちを忘れずに。

- ① 磯部 由美 ②26-3/セネガル
- ③ 青少年活動
- ④ 大学時代にカンボジア支援のNGOで活動しており、国際協力の道に進もうと思っていた。大学院に行く前に開発途上国での経験を積みたいと考えたから。
- ⑤ 早起き。吹雪の中、2時間歩き続けたこと。
- ⑥ 毎晩アイスやお菓子を皆で沢山食べたこと。
- ⑦ 原爆展を活動の中に取り入れる！セネガル料理を作れるようになる！
- ⑧ 早く現地に行きたい！
- ⑨ 健康に気をつけて2年間頑張ってきてます！

- ① 三田 嵩 ②26-3/パプアニューギニア
- ② コミュニティ開発
- ④ 自分のスキルが人の役に立てるかも知れないと思ったため。
- ⑤ 毎日がとても充実しており、睡眠時間が短かったことです。また、週末しかお酒が飲めなかったことも辛かったです。
- ⑥ 毎日がとても貴重で、充実しすぎるくらい充実していました。
- ⑦ 広島のアピールをたくさんしたいです。有名な観光地の紹介、食などを通して、PNGに広島ファンを作りたいと思います。
- ⑧ 日本を離れることが、少し寂しいです。
- ⑨ 元気に過ごして、友達をたくさん作って、元気に帰ってきたいです。

- ① 山本 哲也 ②26-3/ルワンダ
- ③ コンピュータ技術
- ④ ワーキングホリデーで海外に滞在している時に、いろいろな人に助けてもらい、今度は自分が人の役に立つことがしたいと思ったのがきっかけです。
- ⑤ 集団生活が非常につらかったです。
- ⑥ 自主講座でPCメンバーと任国でのPCトラブルについての講座を企画したこと。お風呂が唯一のいやしでした。
- ⑦ 自分の任地以外のところでもPCについてのレクチャーがしたい。後、広島のことを現地の人に伝える活動を率先してやりたい。
- ⑧ あまり実感がありません。年明けの出発なので、年が明けてから段々と実感していくのだと思います。ルワンダに行くのは楽しみです。
- ⑨ 独りよがりの活動をせずに、任地の人とコミュニケーションを取りながら、現地のニーズを引き出した上で活動していきたいです。

- ① 山田 悠加 ②26-3/ベリーズ
- ③ 感染症・エイズ対策
- ④ 中学生からの夢。国際交流・協力で以前より興味があり、人の役にたちたいと思っていました。私にできることがあるならば、ぜひ協力隊として活動したいと思いました。
- ⑤ 週に1日しか休みがなく、がっつりと休める時間が取れなかったこと。
- ⑥ 普段、知り合うことがないであろう日本の地域や様々な職種の人と知り合えたこと。
- ⑦ 自分の心地良い活動範囲から、一歩外に踏み出してみること。
- ⑧ わくわくしています。合格してから時間があつたので、やっと自分の番が回ってきたと思って楽しみで仕方がありません。任地で何が待っているのか、自分に何ができるのか、期待で胸がふくらんでいます。
- ⑨ 自分にできることを見極めて、活動内容を考えていきたい。現地の青少年のみんなのHIV/AIDSに対する考えが、少しでも深まればなと思っています。

- ① 加藤 弘美 ② 26-4/カンボジア
- ③ 観光 ④ 国際交流をしたいと思っていた時に、協力隊に行く人、OBが近くにいて、今だ!と思った。
- ⑤ なし。⑥ 全て。
- ⑦ 何でも興味を持ったことはどんどん挑戦したい。
- ⑧ 楽しむできます! ⑨ 行ってきます!

- ① 中本 彩希子
- ② 26-4/モロッコ
- ③ コミュニティ開発
- ④ 自分の目で日本の外を見たい、ムスリムを深く理解したいと思ったから。
- ⑤ フランス語学習。発音や文法など慣れないものばかりで、授業についていくのに、必死だった。
- ⑥ 野外訓練。班のメンバーと炊事などを、雪の積もる野外で行い、思い出に残った。
- ⑦ アラビア語でのワークショップ
- ⑧ ときどき!! わくわく!!
- ⑨ 人に寄り添った活動を行います!

- ① 田口 実佳 ② 26-4/ウズベキスタン
- ③ 保健師
- ④ 大学時代にOBの方が国際保健の授業でお話くださったことがとても印象的で、自分も参加したいという気持ちになりました。
- ⑤ 毎朝の氷点下でのランニングはきつかったけれど、体力もつき、今ではいい思い出です。
- ⑥ 同じ志をもつ仲間と毎日語り合いながら過ごせたこと。
- ⑦ ウズベク語の習得の他に、ロシア語にも挑戦してみたいです。
- ⑧ これまでたくさんの方に応援していただいたことを忘れずにウズベキスタンの人々の役に立てるように活動していきたいです。
- ⑨ 頑張ります。

- ① 吉岡 あゆみ ② 26-4/インドネシア
- ③ 栄養士 ④ 自分がこれまでに培ってきた知識や経験を任国の人に役立たせたいと思ったから。
- ⑤ 特になし。野外訓練が寒かったくらい。
- ⑥ 毎日の生活。特に語学の訓練。
- ⑦ インドネシアの人から頼りにされたい。人間関係を築きたい。⑧ 不安だけど、楽しみ。
- ⑨ 何もやらずに後悔するのではなく、色々な事にチャレンジしたい。

- ① 岡本 光恵 ② 26-4/グアテマラ ③ 助産師
- ④ 学生時代にいつか参加してみたいと思っていたが、なかなか行動に移せず、参加年齢ぎりぎり応募してみました。
- ⑤ 自立タイプではないので、自分の意見が思うように言えなかったり、聞いてもらえなかったりしたこと。
- ⑥ 仲のよい友達ができ支えてもらった。⑦スペイン語の修得。友達ができたらいいな。そこから任地でお役に立てれば幸いです
- ⑧ 無事に帰ってきたいの一言です。⑨ 健康、事故に気を付けて、任地での役立てる活動を行いたい。

- ① 田曾 友来 ② 26-4/ベトナム③ 日本語教育
- ④ 日本語教師仲間にOBが多くいること。
- ⑤ 辛いと感じた事は特にありません。
- ⑥ 体育委員になったので、スポーツ隊員の皆さんと一緒にトレーニングをし、体調が良くなった。スポーツ大会や体力テストの運営も良かった。
- ⑧ やるべきことをやり、できることをやっていきたいと思っています。どんな事が待ち受けているのか非常に楽しみです。
- ⑨ 日本とベトナムの架け橋となってくれるような人材育成をしたい！日本への恩返しをしたいです。

- ① 川端 俊介 ② 26-4/バナン
- ③ コミュニティ開発
- ④ 海外で、自分の枠を広げたいと考えたため。
- ⑥ フランス語。同期達との生活。
- ⑦ フランス語。現地での音楽活動。
- ⑧ どうにかなる。準備が不十分でも。
- ⑨ 自分を大切に、活動してきます。

- ① 今井 遥香 ② 27-1/チリ
- ③ 歯科衛生士
- ④ 協力隊の方の体験談を聞いて、感銘を受けて、自分も青年海外協力隊になりたいと思った。改めて、進路・将来について考えた時に自分のやりたい事をやろうと決めた。
- ⑤ 毎日何かに追われている事。余裕のない日々。
- ⑥ 仲間がたくさんできた事
- ⑦ チリ縦断！
- ⑧ 不安でいっぱい。荷作りが間に合わない…
- ⑨ 何かすごい事をやろう！っていうのではなく、現地に溶け込んで、自分の知識を共有できたらと思います。楽しい2年間にします！

- ① 山本 結生 ② 26-4/ネパール
- ③ コミュニティ開発
- ④ 途上”って何か考えたい。
- ⑦ 現地の女性が望んでいることを形にする。
- ⑧ 準備おわりません…。
- ⑨ 頑張ります。ありがとうございました。

- ① 亀本 真衣 ②27-1/モルティブ ③小学校教育
- ④ 何かにチャレンジしたい自分を変えたいと思ったから。
- ⑤ 他の隊員と自分を比べてしまい、自分の経験のなさや語学力のなさを痛感したこと。
- ⑥ たくさんのイベントが企画され、みんなでさわいんだり、ご飯の時間などにたくさんの人とお話できたこと。
- ⑦ 原爆展と運動会（主に体育を教えに行くので）
- ⑧ まだいまいち実感が湧いてなくてふわふわしてます。
- ⑨ 私には経験も技術もないので、現地の人と一緒に考え一緒に体育授業の向上をしていきたいと思っています。

- ① 光本玄太 ② 27-1/ラオス ③ 青少年活動
- ④ 大学3年の頃、インドに旅行に行き、子どもの置かれている環境に愕然とした。その時、「何でもいから、海外の子どものために何かしたい」と考え、応募した。
- ⑤ 同じ班で、同じ年で、入所から一番仲良くしていた候補生がケガで退所になってしまったこと。しかし、別の仲間が支えてくれて、改めて仲間の大切さを知った。
- ⑥ スポーツ大会で、学生のように団結して、競技に臨んだこと。年齢がバラバラな中で団結することは、とてもいい経験になった。
- ⑦ ラオス国内の隊員を集めて、それぞれの職種に特化したような文化祭を子どもたちのために開催したい！
- ⑧ 荷づくりがおわらない…。言語の勉強が進まない…。でも、向こうでの活動を考えるとドキドキします！
- ⑨ 2年間、つらいことも楽しいこともあると思いますが、応募したときの気持ちを忘れず、「2年間し続けられる活動を考えて行っていきたいです。

- ① 向井 緑 ② 27-1/青少年活動 ③ キルギス
- ④ 教員としての資質・能力の向上。帰国後の社会還元。
- ⑤ 言語（ロシア語）の学習。泣きながら勉強しました。
- ⑥ 生活班と一緒に食堂で食事をし、悩みや意気込みを語り合ったこと。
- ⑦ 異文化理解。現勤務校の生徒と任地の生徒との交流を開始・継続させたい。
- ⑧ 期待と不安。期待>不安。
- ⑨ （教師として）どこにいても教える心はひとつ。微力ではあるが、無力ではないと信じて、挑戦します。

- ① 上瀬 亮妃 ② 27-1/セネガル ③ 看護師
- ④ 小さい頃、TVで見た貧しい国で苦しむ人々を見て、何もできない自分が悔しく、何かできることはないかと思いついて看護師を目指し、国際協力の道をえらんだ。
- ⑤ 語学の事前学習を全くしておらず、ついていくのが大変だった。人前で意見を言うこと、発表することが苦手だったが発表の場が多く、自分のできなさに落ち込むことも多く辛かった。
- ⑥ 沢山の仲間ができたこと。辛かったことも楽しかったと思えるようになった。毎日がワクワクしていた。
- ⑦ 広島のことを伝えたい。原爆のこと、平和のことを話せる場を設けたい。世界の人がどんなことを考え生活しているのか知りたい。
- ⑧ 楽しみで仕方ない。心配なことは準備（荷物）がおわらないことだけ。
- ⑨ 絶対あきらめず、自分に自信をもって行動します。

- ① 増崎 優 ② 27-1/サモア ③ 小学校教育
- ④ 自分を高めることを通して、子ども達の教育に還元していきたいと思ったからです。
- ⑤ 家族に会えなかったことです。
- ⑥ 多くの学びがあったこと。特に若い方から学ぶことが新鮮でした。
- ⑦ 帰国後に役立ちそうなことは何でも挑戦したいです。
- ⑧ 不安の方が大きいです。家族のこと。どれくらい貢献できるのだろう等。
- ⑨ 小さい成功体験を少しでも積み重ねられるように、がんばりたいです。

- ① 佛圓公宏 ② 27-2/ナミビア
- ③ 土木
- ④ 自身の知識や経験等が少しでも海外の人達の役に立てたら、と思い応募しました。
- ⑤ 英語のテクニカルクラスで毎週プレゼンの準備をしなければならなかったこと。
- ⑥ 生活班のみんなと過ごした日常生活。何げない生活が振り返ると一番楽しかったです。
- ⑦ ナミビアでぜひ原爆展をやりたいです。
- ⑧ 不安と期待が五分五分くらいの心境です。
- ⑨ あまり意気込むことなく、自分のペースで活動したいです。

- ① 川本準也 ② 27-2/東ティモール
- ③ コミュニティ開発
- ④ まちづくりに興味があり、自ら実施者として関わられる仕事を探すなか、協力隊のことを知りました。
- ⑤ 語学が思うように習得できなかったことです。
- ⑥ 毎日、家族のような友達にかこまれて生活をしたことは、とても充実していて、楽しかったです。何げない談話室での時間、語学、全て貴重で楽しい時間でした。
- ⑦ “未来につながる仕組み作り”自分が帰国した後も、現地の人達の生活にプラスになるような仕組みを作りたいです。
- ⑧ 希望に満ちあふれています。少し、帰国後の不安もあります。
- ⑨ たくさん学び、貢献し、帰国後にこの体験を元に、日本を元気にします。

- ① 大前良美 ② 27-2/ベナン ③ 野菜栽培
- ④ 途上国で少しでも役立つ活動をしたと思ったからです。そして熱帯農業についても学びたかったため。
- ⑤ 語学で話したいことが伝わらなかったこと。(フランス語)
- ⑥ 2年後に会うのが楽しみな仲間が増えたこと。ベナンの人に初めて会って、会話ができること。
- ⑦ ベナンの方に新しい野菜を提案する！野菜をもっと食べてもらえるようにする。
- ⑧ まだアフリカに行ったことがなく、不安な気持ちもたくさんありますが、ワクワク感もあります。
- ⑨ 新規の要請なので苦労することが多いとは思いますが、体に気をつけて、若い力で乗り切ります！

- ① 西 則男 ② 27-2/ソロモン
- ③ 障害児者支援
- ④ JICAの活動は以前から知っていましたが、定年退職を機に、今までの経験を生かしたいと思いました。
- ⑤ 訓練言語でプレゼンするときの準備に追われたこと、辛かったけど充実もしていました。
- ⑥ 多くの訓練仲間と友達になり、交流できたこと。
- ⑦ できるだけ、多くの人と交流していきたい。
- ⑧ 日本を代表するという重責を担っている。
- ⑨ 広島心を伝えることのできる活動をしていきたい。

- ① 森谷 香純 ② 27-2/ヨルダン
- ③ 青少年活動
- ④ 前職でラオス滞在中に、以前ボランティアで通っていたタイの山岳民族の子どもの施設を再訪し、子どものために何かしたい、考え続けたいと思ったから。
- ⑤ 暇があったら語学の勉強、それから日本人研究、任国研究、班ゼミ。といろいろやらなければならぬこと、やりたいことがとにかく多く、それぞれをこなすのに苦労した。ずーっと共同生活なのも時々疲れました。
- ⑥ 語学の勉強の合間にクラスメイトとおしゃべりしたり、気分転換にちょっと出かけたりしたこと。昔の同僚に会えたこと！
- ⑦ アラビア語の習得！現地の方と深い関係を築く！
- ⑧ ついに、という楽しみな気持ちと新しい未知の世界で活動を行う不安が混在。
- ⑨ 一人でも多くの方、子どもたちの笑顔が見られるよう、一人一人と誠実に関わっていきたいと思います。

- ① 斉藤栄一 ② 27-2/コロンビア
- ③ 観光
- ④ もともと海外開発青年としてブラジルに派遣されたため、ボランティア活動をライフワークとしてやって行くことが自分の使命と感じた。
- ⑤ 語学訓練の拘束時間が長かった(特に午後)
- ⑥ 生活班の仲間達との交流、飲み会。
- ⑦ 現地の伝統文化、歴史、食事、生活の習得、適応体験、現地の人達とのネットワークの確立。
- ⑧ 期待と不安が半々、3年振りに知人に逢えるのが楽しみ。
- ⑨ 久しぶりの南米生活のため、健康安全に注意して十分エンジョイしたい。

協力隊創設50周年イベント in 広島

20年度4次隊・ウガンダ・土木・竹内英祐



今年11月15日に、協力隊創設50周年イベントとして、中国地方では広島県が中心となり、中国地方に住む隊員OBと協同することができました。広島の国際会議場で毎年11月に行われている「国際交流・協力の日」イベントに参加しました。



OB会のブースとしては、

地球ひろば

に「クイズ・缶バッジ」「途上国のあそび」「民族衣装」「カリンバ（指ピアノ）制作」

「協力隊の歩みが分かる展示・映像ライブラリー」などのコーナーを設け、家族連れを中心に高校生・大学生～大人まで、スタンプラリー参加者数で500名の参加（実際の来場者数はそれ以上）がありました。



屋台のコーナーでは **ブータン料理**

バザーのコーナーでは途上国のフェアトレード商品を出品しました。また、夕方別の部屋で開催した、トークイベントにも立見が出るほどの活況でした



イベント当日には、OBのスタッフとして60名の参加者がありました。また前日14日に行われた懇親会にも50名の参加者があり、クイズ大会も実施し大変盛り上がりました。

HOCA ほかプロジェクト報告



25年度3次隊 井上 裕子 タンザニア(看護師)

タンザニアのみんなは

歌うこと、踊ることが大好き！

そして全ての人を

「カリブー！（ようこそ）」

と明るく受け入れる寛容な国民性を感じます。

【原爆展について】 原爆投下より70年目の今年、8月3～9日（配属先の病院）

と、10月9～11日（セカンダリースクール）で原爆展を開催させていただきました。合計1059名が足を運んでくれました。30枚のパネル展示とMOVIE上映コーナー、そして折り鶴コーナーとメッセージコーナーを設け来場者とともに開催側の私たちJOCVも

共に悲しみ、考えました

真剣な表情でじっくりとパネルを見る人や、MOVIEの映像の悲惨さに思わず声をあげる人もいました。現在の「核保有国と核の数」の多さに驚く人も多く、「原爆の被害に胸を痛めた。戦争、原爆はあってはならないことだ」との声が多くの方から聞かれました。ある高校生は、「銃は人を殺さない、人が人を殺す。平和な生活のために戦争を避ける選択が必要」とのメッセージを残してくれました。



また、原爆について学んだタンザニア人が積極的に来場者に説明している姿が印象的でした。

「一人が理解し、感じた事を含めて 次の一人に伝えていく」

小さく地道だけれどこの作業が続いていく事が一番大切だと感じました。

【折り鶴について】

この度の原爆展開催を企画する中で沸いた一つの願い。。。「タンザニアのみんなとともに折り鶴を作製して広島へ届けたい！」その願いを叶えてくれたのが、HOCA ほかプロジェクトでした。ご支援を頂き本当にありがとうございます。原爆展来場者や近所の子ども達、シスター達やイタリア人、韓国人やアメリカ人とともに作製



した千羽鶴は、海を渡り無事広島の地に到着しました！手先を使う細かな作業に慣れていないタンザニア人にとっての折り鶴はとても困難な作業。。不器用だけど、中には不恰好なものもあるけど、みんなとても一生懸命取り組んでいました

折り鶴最後の過程

羽を広げる瞬間は

みんな目を輝かせて最高の笑顔！折り鶴の意味を理解して、自発でのメッセージが書かれた折り鶴たちも多く目にしました。タンザニアのみんなの真心が被爆者に届きますように。

JICA ボランティア家族連絡会 & OB 会総会のご案内

OBの皆様へ

2月に計画されているイベントのお知らせです。たくさんのOBの方々に集まっていただき、盛り上げていきたいと思っております。

2016年2月20日(土) 広島市留学生会館

派遣中隊員のご家族をお招きし連絡会を開催します。

OBの皆様には、ご家族の不安解消のため相談役としての参加をお願いします。

12:00~15:00 家族会
15:30~18:00 総会

今回から任国料理の提供はありません。昼食を済ませて12:00には会場入りをお願いします。出欠は同封の返信用はがきにてお願いします。

広島JICAデスクからのご案内

国際協力に関心を持つ皆様、あるいは、誰かのために何かしたいと考える皆様が、それぞれの立場でそれぞれの関わり方が出来るよう、情報を発信し、一緒に考えていきたいと思っています。

広島県 JICA デスク 推進員 上田 082-541-3777
広島市 JICA デスク 推進員 橋本 082-242-8879

JICA 広島デスク
フェイスブック
QR コード



【編集後記】

今年度、会報誌を担当させていただくことになりました、祝迫直子です。青年海外協力隊員に出発された方々の出国前アンケートを打ちながら、協力隊時代のことを懐かしむと同時に、皆さん今はどうされているかな、元気かなと思ってしまう。壮行会で話してきた出発前の皆さんの顔を思い出します。準備期間が短かったにも関わらず、寄稿・編集にご協力くださった現役隊員の方、OBの方々、お忙しい中、本当にありがとうございました。この会報誌を通じて、OB会の情報や世界各国で活躍中の隊員のみなさまの様子を、わかりやすくお伝えできればと思っています。投稿・ご意見・ご要望など、何かありましたら、いつでもお寄せください。お待ちしております！

青年海外協力隊 広島県OB会 連絡先

会 長 皿海 博信 (H15-2 タンザニア 自動車板金)
事務局 長 細川 光宜 (H8-2 パプアニューギニア 木工)
会報誌担当 祝迫 直子 (H20-1 インドネシア 青少年活動)
E-mail : hiroshima_jocv_obkai@yahoo.co.jp



○青年海外協力隊広島県 OB 会へのご入会

まだ登録されていない方は、E-mailにて、ご連絡ください。または、右のQRコードからOB会HPのページ内からも入会可能です。広島県出身の方であれば、派遣中隊員の方も、参加OKです。

ぜひこの広島の地で、途国での貴重な経験を、現在のそれぞれの立場で活かしていくことを目的に、広島県OB会に入会して、活動してみませんか。

広島県 OB 会 HP
QR コード

